

| 学部/概要      | 法学部(法律学科)   |
|------------|---|
| モニタリングした内容 | ・1年生科目である法学入門演習について<br>・法曹コースについて<br>・演習について<br>・授業の実施形式についてオンライン授業について   |
| 今後の対応      | ・法学入門演習の推奨は、新入生ガイダンスにおいて積極的に推奨することを続ける。<br>・法曹コース生の要望について、各教員が認識した上でゼミの開講方針を検討する。<br>・授業の形式について、学生の意見を踏まえながら、各教員が開講形式を検討する。   |
| 対応策の実施時期   | 随時  |
| 学部/概要      | 法学部(国際政治学科)   |
| モニタリングした内容 | ・国際政治のさまざまな面についての基礎的知識や見方を身につけるとともに、2年次に所属するゼミを選択する際の判断材料も提供するというこの授業の目的はどの程度達成されていると思うか。改善すべきところ、不満なところはあ<br>るか。<br>・授業の難易度は適切か。<br>・成績評価の方法は適切か。  |
| 今後の対応      | ・私語をする学生への指導をより徹底する。<br>・高校では国際政治についてはほとんど習う機会がないことに対する理解を教員間で共有し、できるだけ平易な説明をこころがける。<br>・レポートの書き方についての説明をより充実させる。<br>・期末レポートに対して教員がコメントすることを検討する。   |
| 対応策の実施時期   | 成績評価方法の変更とレポートの書き方についての指導の一層の充実、私語をする学生に対する注意は来年度から実施する。<br>レポートにコメントすることも来年度から行うことを検討する。   |
| 学部/概要      | 文学部   |
| モニタリングした内容 | (1) 文学部の3つのポリシーについて<br>(2) SSIコースの学生として、学習面で課題があるか<br>(3) SSIコースの学生として、生活面で困難な状況はあるか  |
| 今後の対応      | ・各学科でのSSIガイダンスについて、SSIコースの学生間の繋がりを作るための機会であるという認識を学部教員間で共有する。<br>・SSI生が演習や卒業論文を履修する際に疑問点を解消できるよう、『SSI履修の手引き』の記載を整備する。<br>・SSI主修科目を4限・5限にも配置することを検討するよう、SSI運営委員会に働きかける。<br>・入学前に配付する書類における外国語選択の記載を分かりやすくするとともに、SSI生用の語学科目の存在を周知する。<br>・入学時に、SSI生に特化したサポートを受けられる機会やSSI学生相互の交流の機会をつくることを検討する。<br>・入学前プログラムを課す時点で入学する学部・学科は決まっているため、自分の学部・学科での学習内容に沿った形の課題内容にするよう保健体育センターやSSI運営委員会に働きかけ、<br>大学での学びへのモチベーション向上と心構えの涵養という目的を果たせるよう工夫する。<br>・授業の空き時間にキャンパス内で行えるアルバイトとして授業支援アシスタントがあることをSSI生に周知する。 |
| 対応策の実施時期   | 2025年1月15日の教学改革委員会、および1月29日の文学部定例教授会にて対応する。また、4月の各種オリエンテーションおよびガイダンスの際に実施する。  |
| 学部/概要      | 経済学部  |
| モニタリングした内容 | ・経済学部の市ヶ谷移転について<br>・入門ゼミについて（特に半数化することについて）<br>・コロナ禍による学年間の伝統断絶について<br>・1年次と2年次(以降)の教育内容について<br>・専門教育科目について<br>・演習(ゼミナール)について<br>・カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについて<br>・経済学部の4つのポリシーについて知っているか<br>・経済学部の4つのポリシーが学生に浸透しているか  |
| 今後の対応      | 今回寄せられた意見を学部教員間で共有するとともに、今後の教育内容の改善に活かしていきます。   |
| 学部/概要      | 社会学部  |
| モニタリングした内容 | ・演習3(卒業論文)を履修する、あるいは履修しないという意思決定がいかになされているかを聴取する。<br>・卒業論文を書く、あるいは書かないという意思決定がいかになされているかを聴取する。  |
| 今後の対応      | ・基礎演習担当教員の懇談会で卒論の意識付けを中心的に議論する。<br>・優秀卒業論文集の筆者にアンケートを取り、来年度以降の学生へのメッセージ的なものを得て、少しコンテンツを付け加える。   |
| 対応策の実施時期   | ・基礎演習担当教員の懇談会は、2025年1月21日に実施済み。積極的な意見交換がなされた。<br>・優秀卒業論文集の筆者へのアンケートは、卒業式前に行う予定。   |
| 学部/概要      | 経営学部  |
| モニタリングした内容 | ・経営学部の各ポリシーを知っているか<br>・カリキュラムについてどう思うか<br>・授業形態別(対面・オンデマンド・リアルタイムオンライン)の理解度について<br>・演習(ゼミナール)の募集方法や意義について<br>・就職活動とキャリアアセンターの活用について<br>・(商業高校指定校推薦入学者に対して)簿記、税理士、会計士など会計関係資格の取得予定について<br>・大学・学部への要望および後輩へのメッセージ   |
| 今後の対応      | ・学生の意見を教員および事務方で共有し、授業運営の改善に向けた材料とする(2月18日学部教授会で報告)。  |
| 対応策の実施時期   | ・学生からの要望の一部については、実施可能か検討中である。   |
| 学部/概要      | 国際文化学部  |
| モニタリングした内容 | ・大学入学時の初年次教育(大学の学びに必要な基礎教育)、アカデミックスキルズ(専門的な学習や研究に取り組むにあたっての能力)についての国際文化学部での取り組みについて<br>・SA(Study Abroad)、派遣留学、SJ(Study Japan)、海外フィールドスクールなど、国際文化学部における留学制度について<br>・演習・卒業研究について<br>・大学生生活全般について  |
| 今後の対応      | 現在本学部では、コロナ禍以前に行われていた学生と教職員との協働のあり方について検討を進めている。コロナ禍の数年のブランクがあって、引き継ぎができず、ノウハウが失われてしまっている。今回の学生モニターでは、協働を再開することの検討に向けて、現在の学生の考え方や気質などを知るよい機会となった。<br>初年次教育やSAなど学部主催の留学プログラムについては、時代の変遷とともに学生個々の大学に対する考え方、関わり方が変化しており、またAIなどのテクノロジーの発展、国際社会を取り巻く環境の変化などについて掘り下げて考えるべきであろう。学生たちの意見を参考にしつつ、より相応しい教育プログラムについて検討を進めていきたい。  |
| 学部/概要      | 人間環境学部  |
| モニタリングした内容 | ・人間環境学部の授業、大学生活<br>・人間環境学部のカリキュラム<br>・人間環境学部の雰囲気、イメージ、多様化、国際化   |
| 今後の対応      | ・対面・オンライン授業の選好や、授業内外の学習状況、近年のノートの取り方の多様化など、学生の履修行動について、情報共有を行う。<br>・初年次の必修科目「人間環境学への招待」について、研究会など2年次以降の科目との接続を意識した内容を継続しつつ、さらに充実させる。<br>・「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」について、学生の履修行動を踏まえ、選択必修のあり方や開講時限などを検討する。<br>・RSP生と一般学生の交流する機会の創出について、今後検討する。  |

| 学部/概要      |  | 現代福祉学部   |
|------------|--|--|
| モニタリングした内容 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業所要単位について</li> <li>・カリキュラムについて</li> <li>・入試制度・入学時の学力について</li> <li>・科目履修・各種授業科目について</li> <li>・大学・学部の留學制度について</li> <li>・各種事務手続きについて</li> <li>・多摩キャンパスの施設・設備、通學環境について</li> <li>・ソーシャルワーク実習および精神保健ソーシャルワーク実習について</li> </ul>   |
| 今後の対応      |  | <p>①海外研修制度はとてもしない制度であると思うが、あまり知られていないので周知を強化してほしい。また、研修に参加して費用が高いことを実感している。<br/>→すでに学部ホームページに掲載しているが、ホームページのアクセス先を案内するようガイダンスでも丁寧な説明を行う。併せて、Web掲示板への掲載を引き続き行っていく。また、費用に関しては教授会で検討を行い、学生1人あたりの補助金額の増額を決定しており、2025年度の海外研修より変更していく予定である。</p> <p>②休業期間の事務課の開室時間が分りにくい。<br/>→事務課の開室時間についてはホームページに掲載しているが、現代福祉学部1階の掲示板にも掲示する。また、学部ホームページのトップページに固定記事として掲載して探しやすいようにする。</p> <p>③昼時の現代福祉学部のラウンジの席数が少なくて座れない。<br/>→「昼時（12:50～13:40）は、席を譲り合しましょう」と周知文を作成してラウンジに提示する。</p> <p>④精神保健福祉士資格だけを取得できるカリキュラムがあるとよい。<br/>→精神保健福祉士だけを取得できるよう今年度より学部内においては協議を進めている。実習受け入れ機関と外部組織との協議、カリキュラム運営方法についての検討が終了次第、ホームページ等で周知していく。</p> |
| 対応策の実施時期   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやweb掲示板への掲載は準備出来次第、行う。</li> <li>① 2025年度の春学期ガイダンスで実施する。</li> <li>②～④ 周知文の掲示は準備でき次第、実施する。</li> </ul>  |
| 学部/概要      |  | 情報科学部  |
| モニタリングした内容 |  | <p>情報科学部や法政大学に関して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子が学ぶ上での問題点、課題</li> <li>・留学生が学ぶ上での問題点、課題</li> </ul> <p>を調査した。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム、キャリア教育</li> <li>・施設、課外活動、大学のサポート</li> <li>・その他</li> </ul> <p>について調査した。</p>   |
| 今後の対応      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容については、教授会で共有し、簡単に対応できることは対応する</li> <li>・設備、共有スペースについては、小金井調整会議で検討する</li> <li>・キッチンカーは小金井キャンパスとして検討中</li> <li>・教室については一部工事予定</li> <li>・オンデマンド、オンライン授業は、市ヶ谷などでの開講も含めて検討</li> <li>・留学生への情報提供については、小金井グローバル担当と情報共有</li> </ul>  |
| 対応策の実施時期   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに関しては、2026年頃を目標に、より幅広い層にアピール・対応できるものに改革することを旨として2025年4月から議論を開始する予定。</li> </ul>   |
| 学部/概要      |  | キャリアデザイン学部   |
| モニタリングした内容 |  | <p>本学部在籍中の留学生の現状を把握するため、ポジティブ・ネガティブ両側面から下記のような側面を知るため。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学業において頑張っている点・困っている点</li> <li>・日本語において頑張っている点・困っている点</li> <li>・生活において頑張っている点・困っている点、等</li> </ul>  |
| 今後の対応      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の国際交流委員会にて、文章を書くことにおける添削指導等の支援ができる方法があるか否か、検討することになった。</li> </ul>  |
| 学部/概要      |  | 理工学部   |
| モニタリングした内容 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学経路別（付属校・指定校）大学進学時の進路決定について</li> <li>・影響のあったメディア（SNS、ウェブ、紙媒体）</li> <li>・出身高校の進路指導状況について</li> <li>・所属学科のカリキュラムについて</li> <li>・学部の学修支援体制（授業内容や方法、設備）について</li> <li>・課外活動について</li> <li>・キャリア相談会への参加状況</li> <li>・自由意見</li> </ul>  |
| 今後の対応      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（入学経路）詳細を各学科に伝え、学生指導の際に留意する要素とする。</li> <li>・（カリキュラム）詳細を各学科に伝え、履修指導や次回のカリキュラム変更において参考にする。</li> <li>・（設備）情報関連の話題について、情報センター運営委員会に情報共有する。</li> </ul>  |
| 学部/概要      |  | デザイン工学部  |
| モニタリングした内容 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や教員から送られてくる大体のメール数と概要</li> <li>・メール以外の方法（SLACKやDISCORDなど）で伝達される大学や教員からのお知らせ数と概要</li> <li>・Hoppiiの「Web掲示板」や「お知らせ」の確認頻度</li> <li>・メールの確認頻度</li> <li>・その他要望</li> </ul>  |
| 今後の対応      |  | <p>デザイン工学部教授会（2024年12月10日）でヒアリング結果について共有し、メールなどを配信する際はタイトルで概要が分かるように工夫すること、hoppii（学習支援システム）の「お知らせ」（各講義の連絡事項）機能を使用する際は設定に留意することを確認した。</p>   |
| 対応策の実施時期   |  | デザイン工学部教授会（2024年12月10日）  |
| 学部/概要      |  | 生命科学部  |
| モニタリングした内容 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学部の3つのポリシーについて</li> <li>・カリキュラムについて</li> <li>・TAやラーニングサポーターについて</li> <li>・英語教育について</li> <li>・情報教育について</li> <li>・専門科目について</li> <li>・リメディアル教育について</li> </ul>  |
| 今後の対応      |  | <p>生命科学部の3つのポリシー、カリキュラムについては、ガイダンスなどを通じて学生へのさらなる周知を図る。</p> <p>英語教育、情報教育について得られた意見は関連委員会などと情報共有し、連携を深める。</p> <p>またリメディアル教育については基礎教育カリキュラム委員会と連携をとり、さらなる改善を検討する。</p>   |

| 学部/概要      | グローバル教養学部 (GIS)  |
|------------|--|
| モニタリングした内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目について (Required courses)</li> <li>・科目の選択について (Elective courses)</li> <li>・授業の質について (Regarding the quality of education at GIS)</li> <li>・セレクションについて (Regarding course selection)</li> <li>・Seminarについて (Regarding seminars)</li> <li>・留学について (Regarding studying overseas)</li> <li>・就職支援について (Regarding careers support)</li> </ul>  |
| 今後の対応      | <p>The opinions shared by the students will be discussed by the faculty and be the base for improvement as much as possible.</p> <p>(1) We will continue to aim to reduce differences in the content of Academic Skills Subjects among instructors.</p> <p>(2) We will continue to update curriculum information provided to students to ensure they have a clear vision of how classes they take will lead into more advanced classes and seminar-level research.</p> <p>(3) We will continue to inform students about the necessity of selection and seek their understanding as we move toward making adjustments to streamline the process as much as possible.</p> <p>(4) Regarding the study abroad system, we will consider ways to improve the program and better connect students with those who have studied abroad to share their experiences. We will work to ensure students have access to information about program options and funding.</p> <p>(5) The seminar selection process will be discussed with the faculty with the aim to provide more opportunities for getting the experience of sampling seminars.</p> <p>(6) We will continue to strengthen career education within the faculty and offer more career guidance to better suit the evolving needs of the students.</p>  |
| 学部/概要      | スポーツ健康学部   |
| モニタリングした内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法 (主に対面授業等の授業形態) について</li> <li>・ディプロマポリシーについて</li> <li>・カリキュラムポリシーについて</li> <li>・入試の在り方</li> <li>・実験、実習、実技のアクティブ科目について</li> <li>・食堂について</li> <li>・その他の 学部への要望について</li> </ul>  |
| 今後の対応      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法 (主に対面授業等の授業形態) について</li> <li>・実験・実習・実技・演習等の科目については、学習効果という点で対面を基本とした授業を展開していく、一方で、講義科目については、学生の要望も捉えながら、オンラインあるいはオンデマンドにするなど工夫していく、</li> <li>・ディプロマポリシーについて</li> </ul> <p>=====</p> <p>&lt;スポーツ健康学部 ディプロマポリシー&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな社会性と人間性を支える広い教養を身に付けている。</li> <li>2. スポーツ健康学の学問内容及び方法を理解している。</li> <li>3. 自ら設定した課題について、スポーツ社会科学・健康科学・スポーツ科学のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。</li> <li>4. スポーツ健康学の知を実践の力へと高めることができる。</li> <li>5. 社会における自分の役割を自覚することができる。</li> <li>6. スポーツ健康学の知を持って地域社会のニーズに応えることができる。</li> <li>7. 生きた文化や生きた社会を創る事に寄与できる。</li> <li>8. 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって的確に伝えることができる。</li> </ol> <p>=====</p> <p>以上のディプロマポリシーについて、1、3については総じて身にきてきているという声があったが、6、7、8に関しては新たな課題が現れた。特に6、7に関しては語学系の強化や積極的に他者との交流が図れる場をつくることや、学外での活動を奨励し、それらを評価していく方策が求められると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーについて</li> </ul> <p>学部の掲げるディプロマポリシーを達成するために、5つの科目群 (視野形成科目群、専門基礎科目群、専門基礎科目群、専門科目群、専門演習) を配置し、系統的学習を促進しているとの説明を行った。</p> <p>対象学生は、段階的に専門性を高めていく設定については肯定的に捉えていた。専門科目や専門演習については、小規模学部特有のメリットとして、教員からの指導の充実や学生同士のつながりの深さなどを挙げた一方で、主にコアリングコースの実技・実習科目は1単位が多く、講義科目 (2単位) に比べて単位数が稼げないという意見も出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試の在り方について</li> </ul> <p>一般入試に加え、AO入試など多様な入試経路を設定することは、入学後に学生同士が刺激し合う学びの場として基本的に重要であると捉えている。「スポーツ・健康」という括りの中での学問体系では、文系と理系が併存しており、双方からのアプローチが必要となる。モニター対象学生からも、「スポーツを全般として学びたい人にとっては、今の入試の在り方は良いし、コース横断型のカリキュラム構成も魅力的だ」という声があった。一方で、「スポーツ」を冠にしているので、もう少しアスリートを入学させてもいいのではないかと意見も出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂について</li> </ul> <p>美味しい、メニューが多様 (3種類で量も選べる)、栄養面も考慮されている等、肯定的な意見が出された。一方で、授業期間外や朝食・夕食の設定、現行の昼食時間の延長や売店の充実等の要望も出された。これらの要望について、業者への申し入れなど検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の要望</li> </ul> <p>これまでも触れたとおり、本学部では実験・実習・実技・演習科目が多いが、教育環境を保つうえで履修者に「受講制限」をかけるケースもある。それに対して、年度初めに後期分も含めて履修登録を行うのではなく、後期分は後期に履修登録できるようにしてほしいとの要望が出された。これについては、後期になってから「履修抹消・追加」ができるようになっているが、就活・インターン等にもある程度対応できるよう、柔軟な在り方を検討していく。</p> <p>また、事務課の窓口を4限終了の17時半まで延長してほしいとの要望も出されたが、事務体制についても検討していく。</p> <p>また、駐輪場の整備についても、安全管理につながる問題として検討していく。</p> |
| 対応策の実施時期   | 対応範囲が種々あるため、可能な点から順次対応していきます。  |
| 学部/概要      | 小金井リベラルアーツセンター (KLAC)  |
| モニタリングした内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修・カリキュラムについて</li> <li>・各科目の印象について</li> </ul> <p>(人文・社会・自然科学系、スポーツ健康科学系、選択語学系 (英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)、リテラシー系、数学系、理科系)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対面授業への復帰について (オンライン授業の併用状況など)</li> <li>・語学教育について (英語必修授業の内容など)</li> <li>・サポートについて (履修案内、TA、ラーニングサポーターなど)</li> </ul>  |
| 今後の対応      | <p>今回寄せられた意見を各分科会の専任教員で共有し、理工学部・生命科学部の関係部門とも連携して、改善策を検討する。</p> <p>必修科目の事前登録については、今後の課題として学務課とも情報共有し対応を検討していく。</p>  |
| 学部/概要      | SSI (スポーツ・サイエンス・インスティテュート)   |
| モニタリングした内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ学入門のオンデマンド開講について</li> <li>・スポーツ学演習について</li> <li>・SSIで開講している科目に不足はないか</li> <li>・特にどのような科目が有意義であると感じているか</li> <li>・開講曜日・時間によって履修する科目は変わるか</li> <li>・公認スポーツ指導者資格について</li> </ul>   |
| 今後の対応      | <p>新カリキュラムが始動したばかりであるため、全ての意見に対応することはできないが、次の事項については優先的に検討したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月曜日は、可能な限り必修科目もしくはオンライン/オンデマンド科目を中心に開講する。</li> <li>・金曜日に可能な限りSSI科目を増設する。</li> <li>・スポーツ学演習はSSI生同士のディスカッションや情報交換を促進する演習科目であるため、引き続き学生に履修を促す。</li> <li>・例えば、Hoppii上に「SSI (全体)」といったタブを作成し、そこから情報発信することでSSI生への情報伝達を促進する。</li> </ul>   |
| 対応策の実施時期   | 今後、上記を中心に検討し、実施可能な案件から採用していきたい。  |